

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名： 公益財団法人大垣国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語力はぐくみ事業
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	大垣市を中心とした地域には外国人労働者を雇用する工場等が多く、大垣市に在住する外国人は平成25年以降増加傾向にあり、令和2年2月末の外国籍人口は5,681人、総人口に占める割合は約3.5%と全国平均より高い。近年は、日系ブラジル人を中心に日本に定住することを希望する人、国際結婚、技能実習生の増加などにより、日本社会の一員として暮らす外国人が増えるとともに背景も多様化している。大垣市内にある大学や日本語学校では留学生に対する日本語教育が行われているが、それを除くと大人を対象とした日本語を学ぶ場は当協会の日本語学習支援のみである。 平成28年度に大垣市が実施した外国人市民の現況や課題を調査するアンケートによると、日常生活の悩みや困っていることとして、「言葉が通じない」、「必要な情報が得られない」という回答が上位に挙げた。令和元年度までの4年間、「地域日本語教育実践プログラム(A)及び(B)」を受託し、最低限の日本語能力を習得するための基礎コースと、生活場面で必要な日本語を学習しつつ日本の生活情報を習得するコースを開催し、それぞれのニーズに対応してきたが、前述のとおり日本語学習の場が少ないことから、定員を大幅に超える学習希望者がおり、学習の場の充実を求める意見がある。 また、日本人市民に目を向けると、同アンケートで外国人市民が増えることについて感じることで、地域経済の発展につながると思うなどプラスの面を感じている一方、治安の悪化の可能性があると、ごみ捨てなどの生活ルールが乱れると感じている市民が70%以上いた。また、言葉が通じずコミュニケーションがとれないと感じているなど多文化共生の理解が不足している。そのため、地域住民に外国人市民の現況や日本語教育の取組などを引き続き発信していく必要がある。
事業の目的	言葉や生活習慣、文化の違いなどから日本人と外国人の間で生じるトラブルや、言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設け、地域の人と積極的にコミュニケーションが取れる下地をはぐくむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させることに加えて、日本語教育の取組の成果を広く地域住民に発信することで、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。
本事業の対象とする空白地域の 状況	
事業内容の概要	上記の目的、課題解決のために、次の3つの取組を実施した。 【取組1】外国人市民のための日本語教室 日本語を学び地域の人と交流し、地域生活の情報・ルールを習得できるように、対象者及び目的の異なる2つのコースを実施した。 ①来日間もないなど日本語があまり話せない外国人が最低限の日本語能力を身に付け、安心して暮らせることを目的とした「基礎クラス」、②日常生活場面(買い物、ごみ出し、医療機関の受診など)の会話と、その場面で役立つ生活情報の習得ができる「生活の日本語クラス」を実施した。 ゼロ初級レベルの学習者を含め、あらゆる日本語レベルの外国人が生活に必要な情報を得るための日本語コミュニケーション能力をはぐくめる学習機会を提供した。 【取組2】日本語指導ボランティア講座 外国人のところに寄り添うサポートを同じ地域の住民自身の手で行い、継続的に日本語教育が実施できるように、市民のサポーターを養成した。サポート人材の輪を広げる「入門編」と既にサポートをしている人がステップアップする「ブラッシュアップ編」の2種類を実施した。 【取組3】地域日本語教育シンポジウム 地域の人々に多文化共生の地域づくりに向けた理解を深めてもらうことを目的に行った。課題にあるように外国人が増えることに対するマイナスのイメージを持つ人が一定数いるため、取組の成果発表としての外国人市民の日本語スピーチ発表に加えて、地域日本語教育のあり方などをテーマにしたパネルディスカッションなどを実施し、外国人と共に暮らす地域づくりへの情報発信及び理解促進した。
事業の実施期間	令和2年5月～令和3年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 かな	岐阜協立大学
2	市橋 剛	岐阜県多文化共生推進員
3	大塚 親子	大垣市立中川小学校
4	岡本 幸	CAPCO(大垣市外国人コミュニティサポートセンター)
5	柏谷 涼介	セントラルジャパン日本語学校
6	桐山 知弘	大垣市まちづくり推進課
7	小寺 里香	岐阜大学
8	所 渉子	大垣市多文化共生サポーター事業
9	社本 久夫	公益財団法人大垣国際交流協会



▲Zoomによる開催(令和3年3月7日)

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年11月8日 (日) 14:00～16:00	2時間	大垣市 スイトピアセン ター 自治会室	伊藤 かな、市橋 剛、 大塚 親子、岡本 幸、 柏谷 涼介、桐山 知弘、 小寺 里香、所 渉子、 社本 久夫、吉安 三恵	①令和2年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・各取組の概要及び実施状況(中間報告)をした。 ・効果的な取組とするため、各取組の内容について意見交換をし、改善点を検討した。 ②取組3「地域日本語教育シンポジウム」について ・シンポジウムのテーマや登壇者などを検討した。
2	令和3年3月7日 (日) 13:30～15:30	2時間	オンライン (Zoom)	伊藤 かな、市橋 剛、 大塚 親子、岡本 幸、 桐山 知弘、小寺 里香、 所 渉子、社本 久夫、 吉安 三恵	①令和2年度の事業評価について ・全取組のアンケート結果や実施状況を通して、目的・目標への達成度と今後の改善点を協議した。 ②令和3年度の事業について ・令和2年度の取組を踏まえて、令和3年度への改善点などを含めた事業の具体的な内容案の説明と、委員と意見交換をした。

上記の2回に加えて、7月に事業概要及び成果検証方法のアンケート項目案を委員に送付し、意見を徴収した。意見を基に、事業の内容やアンケート項目を再検討し、事業の成果を測るアンケート項目とした。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	行政、留学生への日本語教育を実施する大学・日本語学校、市民団体(ブラジルにルーツを持つ人が中心となってできた団体)、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員など、日頃から外国人に関わる業務を担っている人が運営委員会のメンバーに入り、それぞれの立場から多角的かつ効果的な事業実施の検討と成果の検証をした。 また、各機関とのネットワーク形成、抱えている外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力ができた。 在住外国人の団体と共に取り組む中で、日本人目線だけでなく当事者である外国人の目線も反映させることができ、地域の課題解決に繋げていく基盤ができた。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	当地域の「生活者としての外国人」に関係の深い機関・団体のメンバーが運営委員会に入り、そのうち2人が中核メンバーとして事業を推進していく体制で行った。日本語教育の専門機関であり、且つ大垣市行政とも複数の事業で既に連携・協力体制にある岐阜協立大学に所属する人が当協会の事業担当者と共にコーディネーターとして、行政・日本語教育機関・事業実施主体の各々と連携をした。 各機関・団体の役割としては、当協会は関係機関との調整やこれまでに培ってきた外国人支援の実績から外国人への学習機会の周知やボランティアの募集を中核的に行い、長年地域の日本語教育に携わり、且つ過去4年間の当事業のコーディネーター経験者がコーディネーターとして地域の外国人の実情に即した教育プログラムを作成し、日本語教育機関が日本語学習の指導技術を提供・連携し、それぞれの専門性を活かした実施体制を作ること、参加者に受入れられやすい事業を行った。
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞【実施期間:令和2年6月21日～令和3年2月14日】		
取組の名称	外国人市民のための日本語教室「①基礎クラス」、「②生活の日本語クラス」	
取組の目標	・外国人市民が日本語学習を通して、生活の中で自ら地域住民などとコミュニケーションを取れるように日本語を習得し、地域社会の一員として安心して暮らせること。 ・教室活動を通して生活情報や行政情報を得て、自立した生活が送れること。	
取組の内容	・多様な背景を持つ外国人に対応し日本語の習得と日常生活で役立つ情報やルールなどを習得する2クラスを、地域の外国人の学習希望日時で一番ニーズのある日曜日の午前に実施した。 ■①基礎クラス(2時間×10回×3期＝60時間、全30回) ※計画では、2時間×12回×3期であったが、新型コロナウイルスの影響から1期12回を10回に減らした。 1期:令和2年6月21日(日)～8月23日(日)【10回】 9:30～11:30 2期:令和2年9月6日(日)～11月8日(日)【10回】 9:30～11:30 3期:令和2年11月22日(日)～令和3年2月14日(日)【10回】 9:30～11:30 [対象] 日本語がゼロ初級レベルの人(定員:各期15人) [内容など] ・地域住民との関係作りのきっかけとなり、地域で受け入れてもらうために「自分・家族・母国のことを伝える」をテーマとした。 ・テーマに関するコミュニケーションができるための表現、語彙に加えて、日本の生活習慣、文化も習得できるカリキュラムで行い、自分のことを限られた語彙の中ではあるが、伝えられるようになった。 ・例年までは、教室内を移動していろいろな人と会話する時間を作ったが、今年度は接触を減らすため、隣の人や前後の人との会話にとどめた。 ・文字学習は、まず自分の名前を書く練習をした。また、1回目は「あ行」、2回目は「か行」と順にひらがなを一通り行った。しかし、ほとんどの学習者の名前はカタカナで書くことが多いので、2期目からはカタカナもすることにした。ひらがなは教室内で、カタカナは宿題で出し、次の最初に指導者とアシスタントが宿題のチェックした。 ・最終回に、今まで習ったことを使った簡単なスピーチをした。 ■②生活の日本語クラス(2時間×8回＝16時間) 日時:令和2年8月9日(日)～10月4日(日)【8回】 9:30～11:30 [対象] 基礎クラス終了レベルで日本語を学びたい人なら誰でも(定員:15人) [内容など] ・生活に密着した場면을テーマとして、語彙、やりとり、情報などを学習した。 ・平成29年度当プログラム(A)で作成した学習教材から「①病気になったら」、「②大雨・地震に備える」、「③買い物」、「④ゴミをだす」、「⑤電話をかける」の5テーマをピックアップし、実施した。各テーマは1回または2回完結型。 ・教室活動では、座学に加えて、ゴミの分別の実体験や、病院の診察、会社に電話する場面などのロールプレイを行い、楽しく日本語を学べるよう工夫した。5つのテーマは事前に決めたが、それぞれのテーマの中での具体的な場面は受講者の希望や日々困っていることなどを聞いてから決めた。 例えば「電話をかける」の中では、「子どもの学校や会社に休む連絡をする」「110番・119番」の希望が多かったことから、これらの場面をすることにした。 ・「②大雨・地震に備える」は大垣市防災担当職員を招き、避難所の確認や災害に関する情報提供を行った。同様に、「④ゴミをだす」は、大垣市の担当職員を招き、ゴミ出しルールの説明や分別の指導をした。市役所職員に、外国人に接してもらう中で、外国人への情報提供の方法を含めた多文化共生の視点を持ってもらい、地域全体が外国人と共に暮らすまちづくりになるよう、連携して実施した。 ＜両クラス共通＞ ●アシスタント ・日本語指導ボランティア(2～4人程度)がローテーションでアシスタントとして参加し、会話練習の相手役や学習者の見回り、指導者のサポートをした。(新型コロナウイルス感染防止のため、グループ活動はほとんど実施できなかったが、各机を回り必要なサポートを行った) ●行動目標 ・毎回の教室活動は、「何が出来るようになるかを示す行動目標(can-do statements)」を設け、そのために必要な文型や語彙を学ぶカリキュラムを組み立てた。例えば「母国の料理が紹介できる」を目標にした回では、食材の名前、料理の方法(焼く、煮る)、どういう時に食べるかなどを伝えるための表現や語彙を学習した。 ○託児室 ・例年は日本語教室に合わせて託児室を開設していたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、開設しなかった。 ＜基礎クラスのみ＞ ●教室コーディネーターの配置 ・事業全体のコーディネーターとは別途、日本語教室(基礎クラス)をコーディネートするコーディネーターを設置した。役割:プログラムの編成、カリキュラム・教材の作成、複数の指導者がローテーションで指導するため指導者間の調整、学習の習得率が低い学習者への対応、学習者のレベルに応じた授業内容の適宜見直しなど ●事業の再委託 ・基礎クラスの実施においては、コーディネート業務及び指導を日本語学校に再委託した。再委託にあたって指導者の要件を次のとおり設けた。 ・大学(短期大学を除く。以下において同じ。)又は大学院において日本語教育に関する教育課程を履修して所定の単位を修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者 ・大学又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を26単位以上修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者 ・公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験に合格した者 ・学士の学位を有し、かつ、日本語教育に関する研修であって適当と認められるものを420単位時間以上受講し、これを修了した者 ・その他これらの者と同等以上の能力があると認められる者	
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	

取組による体制整備		・日本語学校、大学から日本語教師を指導者として迎え、日本語教育の専門機関と協働した取組ができた。 ・行政職員から災害などの情報提供を行う機会を設け、行政との更なる連携を取り、防災などにおいても協力し合える体制整備をした。									
取組による日本語能力の向上		・初級ゼロレベルの人が、最低限安心して生活できる日本語の習得 ・日常の生活に役立つ日本語と生活ルールなどの習得									
参加対象者		・日本語の学習を希望する外国人住民				参加者数 (内 外国人数)			総数 83人(60人) ・日本語学習者 58人(基礎クラス15人×3期、生活の日本語:13人) ・指導者:8人 ・支援者(アシスタント):17人		
広報及び募集方法		・当協会ウェブサイト ・Facebook(やさしい日本語、ポルトガル語、英語)発信 ・微信(中国語)発信 ※中国人が一番よく使うメッセージングアプリ ・チラシ配布(やさしい日本語、ポルトガル語、中国語、英語)									
開催時間数		総時間 76時間(空白地域 0時間)				内訳 2時間 × 38回 ■基礎クラス: 60時間(2時間×30回(10回×3期)) ■せいかつのにほんごクラス: 16時間(2時間×8回)					
主な連携・協働先		日本語学校、大学、大垣市役所									
■基礎クラス 受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	1人(1期:1人)		28人(1期:13人、2期:11人、3期:4人)	4人(1期:1人、2期:1人、3期:2人)				1人(1期:1人)	11人(2期:2人、3期:9人)		45
	※該当する場合のみ										
■生活の日本語 受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
			6人					1人	3人	1人(帰化)	13
	※該当する場合のみ										
【基礎クラス】 実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	〈1期〉 令和2年6月21日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	12	自己紹介	オリエンテーション、ネームプレート作成、初めてあった人に自分の基本情報、日本に来た理由を伝えるための名前、出身国、日本に来た理由を伝える語彙、表現の学習		高木 弥希	〈補助者〉 伊藤 祥、松田 東司		
2	令和2年6月28日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	14	会社・学校・職業など、職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場などを伝えるため「今何をしていますか」や「仕事はどうですか」の問いに答えられる学習		岩崎 由美	〈補助者〉 安藤 誠、大橋 節子		
3	令和2年7月5日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	12	休日・趣味について伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友人関係のきっかけを作るため「休みは何曜日ですか」や「休みの日は何をしていますか」「今後一緒に〇〇しませんか」、曜日、時間のことば		岩崎 由美	〈補助者〉 伊藤 祥、西村 なるみ		
4	令和2年7月12日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	14	家族の構成、簡単な紹介をする	家族構成を表すことば(夫、両親、娘、お子さん、奥さんなど)、「家族は〇人です」、「子どもは〇歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習		板倉 佑真	〈補助者〉 林 光子、松田 東司		
5	令和2年7月19日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	12	家族の性格を伝える	「性格のことば」「好きなこと」「嫌いなこと」「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習		板倉 佑真	〈補助者〉 安藤 誠、久世 淳三		
6	令和2年7月26日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	10	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつですか」の問いに答えられる日にちのことばとその表現、「〈記念日〉に〈人〉に〇〇をもらいました」「あげました」など授受表現の学習		高木 弥希	〈補助者〉 西村 なるみ、林 光子		
7	令和2年8月2日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	11	母国について伝える①	位置、方角、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習		高木 弥希	〈補助者〉 伊藤 祥、林 光子		
8	令和2年8月9日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイトピアセンター男女共同参画活動室	11	母国について伝える②	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるようなことば(暑い、寒い、大きい、小さいなど)や有名なもの(海、山、おまつりなど)の問いに答えられる学習		渡辺 美ひろ	〈補助者〉 西村 なるみ、松田 東司		

9	令和2年8月16日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	母国について伝え る③	食べ物に関することば(野菜、肉など)、 味に関することば(おいしい、甘い、辛い など)。それらを使って、自分の国の有 名な料理を説明	板倉 佑真	〈補助者〉 伊藤 祥、林 光子
10	令和2年8月23日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	まとめ	今まで習ったことを使って簡単なスピー チとやりとり、修了証授与	高木 弥希	〈補助者〉 安藤 誠、伊藤 祥
11	〈2期〉 令和2年9月6日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	14	自己紹介	オリエンテーション、ネームプレート作 成、初めてあった人に自分の基本情 報、日本に来た理由を伝えるための名 前、出身国、日本に来た理由を伝える 語彙、表現の学習	岩間 美奈	〈補助者〉 伊藤 祥、林 光子
12	令和2年9月13日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	会社・学校・職業など、 職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場な どを伝えるため「今何をしていますか」 や「仕事はどうですか」の問いに答えら れる学習	高木 弥希	〈補助者〉 安藤 誠、伊藤 祥、吉田 忠史 ギエム ティ リン
13	令和2年9月20日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	11	休日・趣味について 伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友 人関係のきっかけを作るため「休みは何 曜日ですか」や「休みの日は何をしてい ますか」「今後一緒に〇〇しませんか」、 曜日、時間のことば	岩崎 由美	〈補助者〉 西村 なるみ、林 光子、吉田 忠 史、ギエム ティ リン
14	令和2年9月27日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	家族の構成、簡単な 紹介をする	家族構成を表すことば(夫、両親、娘、 お子さん、奥さんなど)、「家族は〇人で す」、「子どもは〇歳です」、「子どもは小 学校に行っています」など、家族の基本的な 情報を伝える語彙、表現の学習	岩崎 由美	〈補助者〉 伊藤 祥、小林 ゆき、林 光子、 ギエム ティ リン
15	令和2年10月4日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	11	家族の性格を伝える	「性格のことば」「好きなこと」「嫌いなこ と」「上手なこと」など、人の内面的な情 報を伝える語彙、表現の学習	高木 弥希	〈補助者〉 安藤 誠、吉田 忠史、ギエム ティ リン
16	令和2年10月11日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	13	記念日、思い出など を伝える	「誕生日はいつですか」の問いに答えら れる日にちのことばとその表現、「〈記念 日〉に〈人〉に〇〇をもらいました」「あげ ました」など授受表現の学習	高木 弥希	〈補助者〉 伊藤 祥、西村 なるみ、松田 東 司、ギエム ティ リン
17	令和2年10月18日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	10	母国について伝え る①	位置、方角、人口など、自分の国の情 報を説明する語彙、表現の学習	岩崎 由美	〈補助者〉 安藤 誠、松田 東司、ギエム ティ リン
18	令和2年10月25日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	母国について伝え る②	自分の国の特徴について簡単に伝える ことができるようなことば(暑い、寒い、 大きい、小さいなど)や有名なもの(海、 山、おまつりなど)の問いに答えられる 学習	岩崎 由美	〈補助者〉 伊藤 祥、今井 啓、ギエム ティ リン
19	令和2年11月1日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	母国について伝え る③	食べ物に関することば(野菜、肉など)、 味に関することば(おいしい、甘い、辛い など)。それらを使って、自分の国の有 名な料理を説明	岩崎 由美	〈補助者〉 安藤 誠、久世 淳三、松田 東 司、ギエム ティ リン
20	令和2年11月8日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	7	まとめ	今まで習ったことを使って簡単なスピー チとやりとり、修了証授与	高木 弥希	〈補助者〉 伊藤 祥、今井 啓、吉田 忠史、 ギエム ティ リン
21	〈3期〉 令和2年11月22日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター創作実 習室3	14	自己紹介	オリエンテーション、ネームプレート作 成、初めてあった人に自分の基本情 報、日本に来た理由を伝えるための名 前、出身国、日本に来た理由を伝える 語彙、表現の学習	岩崎 由美	〈補助者〉 伊藤 祥、久世 淳三、小林 ゆ き、ギエム ティ リン
22	令和2年11月29日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	15	会社・学校・職業など、 職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場な どを伝えるため「今何をしていますか」 や「仕事はどうですか」の問いに答えら れる学習	高木 弥希	〈補助者〉 安藤 誠、今井 啓、小林 ゆき
23	令和2年12月6日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	12	休日・趣味について 伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友 人関係のきっかけを作るため「休みは何 曜日ですか」や「休みの日は何をしてい ますか」「今後一緒に〇〇しませんか」、 曜日、時間のことば	高木 弥希	〈補助者〉 伊藤 祥、久世 淳三、吉田 忠 史
24	令和2年12月13日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	13	家族の構成、簡単な 紹介をする	家族構成を表すことば(夫、両親、娘、 お子さん、奥さんなど)、「家族は〇人で す」、「子どもは〇歳です」、「子どもは小 学校に行っています」など、家族の基本的な 情報を伝える語彙、表現の学習	岩崎 由美	〈補助者〉 安藤 誠、山川 紗奈、ギエム ティ リン、グエン ティ ジェップ
25	令和2年12月20日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	13	家族の性格を伝える	「性格のことば」「好きなこと」「嫌いなこ と」「上手なこと」など、人の内面的な情 報を伝える語彙、表現の学習	岩崎 由美	〈補助者〉 今井 啓、小林 ゆき、谷口 圭 子、ギエム ティ リン

26	令和3年1月10日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	11	記念日、思い出な どを伝える	「誕生日はいつですか」の問いに答えら れる日にちのことばとその表現、「〈記念 日〉に〈人〉に〇〇をもらいました」「あげ ました」など授受表現の学習	高木 弥希	〈補助者〉 吉田 忠史、グエン ティ ジェッ プ
27	令和3年1月24日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	母国について伝え る①	位置、方角、人口など、自分の国の情 報を説明する語彙、表現の学習	高木 弥希	〈補助者〉 今井 啓、グエン ティ ジェッ プ
28	令和3年1月31日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	9	母国について伝え る②	自分の国の特徴について簡単に伝える ことができるようなことば(暑い、寒い、 大きい、小さいなど)や有名なもの(海、 山、おまつりなど)の問いに答えられる 学習	高木 弥希	〈補助者〉 小林 ゆき、ギエム ティ リン、グ エン ティ ジェッ プ
29	令和3年2月7日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ターかがや き活動室6- 3	9	母国について伝え る③	食べ物に関することば(野菜、肉など)、 味に関することば(おいしい、甘い、辛い など)。それらを使って、自分の国の有 名な料理を説明	岩崎 由美	〈補助者〉 伊藤 祥、吉田 忠史
30	令和3年2月14日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ターかがや き活動室6- 2	9	まとめ	今まで習ったことを使って簡単なスピー チとやりとり、修了証授与	岩崎 由美	〈補助者〉 伊藤 祥、小林 ゆき、グエン ティ ジェッ プ
【生活の日本語クラス】 実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年8月9日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	10	病院①	身体の部位、診療科の種類、病状など の言葉を学習し、「熱があるんですが、 どこの病院がいいですか」や「すみませ ん、〇〇してください」などを伝えるやり とり	伊藤 かなな	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
2	令和2年8月23日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	9	病院②	病院の受診のロールプレイ。問診票の 言葉の学習、医者からの質問に答える やりとり	伊藤 かなな	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
3	令和2年8月30日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	9	災害(地震)	「地震」「震度」など地震災害に関す ることばや表現、市職員による防災や地震 の際にとるべき行動の指導、避難所の 確認	伊藤 かん な、 大垣市生活 安全課(災 害)職員	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
4	令和2年9月6日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室3	10	災害(水害)	「大雨警報」「暴風」など気象災害に関 することばや表現、水害時の避難所、非 常持ち出し袋などの情報提供	伊藤 かん な、 大垣市生活 安全課(災 害)職員	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
5	令和2年9月13日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	9	買い物	チラシの読み方、安い(よい)お店を聞 く、返品・交換方法、レジでの支払い(ク レジットカード、ポイントカード)の各場面 でのやりとり	小寺 里香	〈補助者〉 林 光子、松井 文、松田 東司
6	令和2年9月20日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	10	ごみ出し	ごみの種類の言葉、ごみの分別活動、 市職員による指導、近所の人にごみの 出し方を尋ねるやりとり	小寺 里香、 大垣市ク リーンセン ター職員	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
7	令和2年9月27日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	8	電話をかける①	110番、119番に電話をかけるやりとり	宮本 正美	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
8	令和2年10月4日 (日) 9:30～11:30	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室4	9	電話をかける②	休む連絡をする(会社、子どもの学校な ど)、お店の予約をする際のやりとり	宮本 正美	〈補助者〉 松井 文、松田 東司
計		76		419				

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

活動内容(基礎クラス、生活の日本語クラス共通):
・視覚的にも理解を促せるように、全ての授業はスライドを使い、写真やイラストを用い、文字もひらがなにローマ字のルビを振って作った。
・コロナ禍でグループ活動ができず、例年に比べると会話の練習が難しい環境であったが、できるだけ学習者の発話の機会を増やすために、指導者だけでなく、アシスタントも学習者の様子をみながらサポートし、会話の機会を多く持てるよう活動を行った。



▲スライドを使った学習



▲アシスタントとのやりとり

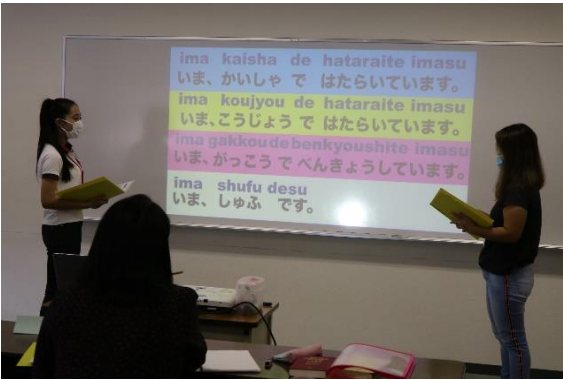


▲受講証贈呈(各期最終日)

○取組事例①

【基礎クラス 第1回 令和2年6月21日(日)】「テーマ:自己紹介」
①ひらがな学習
・ひらがな「あ行」、ネームプレートの作成と、自分の名前を書く練習
②「国の名前」「わたし」「住んでいる場所」「来日の理由」のことばと表現を、スライドを使い、絵や学習者の母語も使用して学習
③「国はどこですか」「どうして日本に来ましたか」の発話をペアで練習
④コミュニケーション練習
・ここまでで提示した文をつなげて、ペアで会話練習
⑤ふりかえり
・語彙の復習、「ふりかえりシート(学習した表現や文型を記入する)」の記入

・教室形式(全員前を向いた形)で着座のため、顔を見合わせて話す時間はあまり持てなかったが、隣や前後の人の間で自己紹介をして、少し打ち解けることができた。
・7割以上がブラジル人であり、日本在留年数も6か月から20年と様々で、日本語のレベルにも多少のばらつきがあったが、ブラジル人同士で教え合う様子があった。



▲ペアで自己紹介のやりとり



▲隣の人と会話練習

○取組事例②

【生活の日本語クラス 第6回 令和2年9月20日(日)】「テーマ:ごみ出し」
・大垣市職員の協力のもと、ごみのサンプル、ごみ収集場所にあるかごや箱などを設置し、実際のごみ出し場所を想定した実践をしながら教室活動を行った。
・具体的には、
①ごみのサンプルを使って、自分の知識でごみの分別
②平成29年度に作成した教材の「ごみを出す」の課に出てくる、語彙や表現を確認
例えば、近所の人に「ごみの出す日、出す場所、出すときの方法」を聞く表現など
③上記の表現を使って、アシスタントや市職員とやりとりをし、ごみの分別方法などの情報習得
④自分の地域のごみ出しの曜日を市のパンフレットで確認
⑤再度分別を行い、正しく分別ができるようになったか確認と市職員によるアドバイス



▲市職員にごみの出し方を聞くやりとり



▲再度の分別活動の後、市職員によるアドバイス

(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できたかを検証するために、アンケートを実施した。詳細は別紙アンケート結果の通り。

・【3】「この教室にきて、あなたの日本語は まえより 上手になったと思いますか？」の質問を基礎クラス、生活の日本語クラス、それぞれで実施した。両クラスとも、アンケートに回答した全員が、「上手になったと思う」または「まあまあ上手になったと思う」と回答している。教室に参加したことにより日本語の習得ができたと考える。

・【4】「この教室にくるまえよりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？」の質問も同様に、基礎クラス、生活の日本語クラス、それぞれ実施した。両クラスとも、アンケートの回答した全員が、「できるようになったと思う」または「少しできるようになったと思う」と回答している。教室で日本語に加えて、文化や習慣、また生活情報を得たことにより生活がしやすくなり、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができる機会になったと考える。

・指導者がローテーションである中、2期目はアシスタントの1人に毎回継続して参加してもらった。そのため、学習者との距離が近くなり、学習者もお互いに打ち解け合い、交流が持てるようになっていた。また、ベトナム人のアシスタントが2人参加したことで、日本語学習の先輩であり、また年齢も近いことから教室内での会話が増え、教室活動が活発になったと感じた。

(3) 今後の改善点について

・基礎クラスは、ゼロ初級レベルを対象としているが、他のレベルの教室がないことから、様々な学習者が集まる。学習者の日本語レベルの差が大きくなる期もあり、難しく感じて途中で学習をやめる人や、逆に簡単と感じた学習者もいた。日本語がほとんどゼロの学習者にはアシスタントが付き添ってサポートを行ったり、比較的理解している学習者に同じ国の学習者のサポートをお願いしたりした。その点は今後も継続していきたいと考えるが、日本語がほとんど理解できない人ほど、自分は参加してはいけないと思ってしまう傾向があった。そのような思いになる教室活動や進め方を見直し、誰もが参加したいと思える教室となるように、コーディネーター、指導者、アシスタントと一緒に活動を再度見直していく必要を感じている。

・途中から参加しなくなる学習者がどの期にもいた。理由を聞いてみると、用事で1回休むと次回以降の内容がわからなくなり、教室に行きづらいという声を数人から聞いた。特に今年度はコロナウイルスの関係で1期あたりの回数を減らしたことから昨年度まで実施していた復習回(各テーマ終了後にそのテーマの内容を凝縮した復習内容)をカットした。復習回の大切さを実感したので復活させると共に、例えば教室の様子をビデオ撮影し、欠席者が後日見れるようにする、またはオンラインで繋ぐなどの対応を検討していきたい。

・今年度は日本語非母語話者のアシスタントの活躍があるなど、日本語学習の先輩が近くにいたことは、学習者にとって励みになったと思う。また、指導者から家で学習できるアプリなど教室以外の学習方法を紹介したが、日本語学習の先輩から自身の学習方法を紹介してもらうこともできると思うので、今後そのような時間を作っていきたい。

・できるだけ多くの人の関わりがあるとよいと思い、アシスタントも1期あたり7～10人くらいがローテーションで入ってもらった。その一方、指導者もアシスタントもローテーションで毎回変わると、学習者が打ち解けるのに時間がかかるように感じた。状況を見ながら、同じ期の中ではできるだけ少ない人数でローテーションするなど、工夫したい。

＜取組2＞【実施期間:令和2年10月18日～令和3年1月31日】											
取組の名称		日本語指導ボランティア講座「①入門編」、「②ブラッシュアップ編」									
取組の目標		・外国人市民も同じ地域に暮らす住民として寄り添った日本語学習の支援者となる人材を養成し、より多くの外国人が日本語の支援を得られる環境を作る。 ・現在活動している人が支援している中で持つ不安や疑問を解決し、より効果的に且つ継続した支援ができる体制を作る。 ・サポートに必要な知識の習得を行うとともに、地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す。									
取組の内容		・新たな人材の養成を目的とする入門編、活動者の不安解消やブラッシュアップを目的とするブラッシュアップ編の2コースを実施した。 ■①入門編(2時間×5回×1期＝10時間) ※計画では年間2期であったが、新型コロナウイルスの影響で1期のみ開催となった。 [対象] 日本語学習支援の未経験者向け(定員:20人) 日時:令和2年10月18日(日)～11月29日(日)【5回】 10:00～12:00 [内容] ・日本語学習希望者に対して、支援の人材が不足している状況が続いている。そのため、サポートに必要な知識などを習得できる講座を通して人材を育成し、体制整備をするため実施した。 ・地域の外国人の背景や実情、日本語教室の役割、多文化共生についての理解促進、実際の日本語学習支援のイメージを掴んでもらうこと、そして日本語学習のサポートをするにあたり必要な姿勢や知識を理解してもらうことを目的に、次の内容を実施し、新たな人材の養成とより多くの外国人市民が日本語を学ぶ環境を作った。 1. 大垣市在住外国人の現状、大垣市の多文化共生の取組 2. 日本語学習支援事業について （コロナ禍で、日本語教室の見学はできなかったが、事前に撮影した動画で、実際の様子やアシスタントの姿勢などを見てもらった） 3. 支援者として必要な知識の講義 （「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)(文化審議会国語分科会)」に記載のある支援者として望まれる資質や能力、支援のための準備、やさしい日本語など） 4. 本事業で平成29年度に作成した教材を使用した学習支援の体験 [受講後の日本語教育との関わり] ・取組1の日本語教室でアシスタントとして活動 ・日本語教室終了後も継続して学習を希望する人を対象にマンツーマン方式の日本語学習支援の支援ボランティアとして活動 ■②ブラッシュアップ編(2.5時間×4回×1期＝10時間) 日時:令和3年1月10日(日)～1月31日(日)【4回】 14:00～16:30 [対象] 日本語支援に関わっている人(定員:30人) [内容] ・日本語指導ボランティアとして活動している人が、日頃の活動の不安や悩み、疑問点などを解消し、外国人がより効果的に日本語を習得でき、また支援者も活動しやすくなるために、次の内容で実施した。 1. 支援者として必要な知識の講義 （支援者として望まれる態度や技能、発話調整、やさしい日本語、コミュニケーション能力の高め方など） 2. 日本語の構造 （文の構造や文法の知識、音声やアクセントについて） 3. コミュニケーションのための日本語									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・背景などを理解し外国人に寄り添った日本語学習支援ができる人材を養成することで、外国人の日本語学習機会を増やし、また質を上げることができた。 ・講座を通して日本語教育の重要性及び多文化共生の地域づくりを発信していく人を増やすことができた。									
取組による日本語能力の向上		特になし									
参加対象者		日本語学習支援・多文化共生に興味・関心のある市民、当協会の日本語指導ボランティア登録者など					参加者数 (内 外国人数)		31人(0人) ・入門編:23人 ・ブラッシュアップ編:8人		
広報及び募集方法		・当協会ウェブサイト ・大垣市広報誌 ・チラシ配布(配布先:市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(大垣市内の大学、短期大学及び岐阜大学)) ・ボランティア登録者への案内									
開催時間数		総時間 20時間(空白地域 0時間)					内訳 ■入門編:2時間×5回＝10時間 ■ブラッシュアップ編:2.5時間×4回＝10時間				
主な連携・協働先		大垣市役所、日本語学校									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
										31人	31
※該当する場合のみ											

【入門編】実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年10月18日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室2	20	在住外国人の状 況、多文化共生に ついて、日本語学 習支援活動につい て	・大垣市の外国人の状況、多文化共生 の取組紹介 ・日本語学習支援の各種取組を紹介 (役割や外国人との接し方などを動画を 使い説明)	桐山 知弘 (吉安 三恵)	なし
2	令和2年10月25日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室2	17	日本語学習支援者 とは？	・日本語学習支援者に望まれる資質・能 力 ・日本語の特徴(文法、文字など)	柏谷 涼介	なし
3	令和2年11月1日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室2	16	日本語学習支援者 とは？	・前回の続き ・やさしい日本語について	柏谷 涼介	なし
4	令和2年11月22日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室2	14	コミュニケーション の日本語とは？	・語彙や文法を説明する方法について ・生活で使える日本語を習得するために can-do(何ができるか)の考えを紹介 ・どのように支援するとよいのか考えた	柏谷 涼介	なし
5	令和2年11月29日 (日) 10:00～12:00	2	大垣市スイ トピアセン ター会議室2	14	日本語支援の体験 をしてみよう	・教え方のモデル例の提示(平成29年 度に作成した日本語教材を使用して) ・モデル例を使用しての体験	柏谷 涼介	なし
【ブラッシュアップ編】実施内容								
1	令和3年1月10日 (日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	7	日本語支援者に求 められていること、 日本語文の構造	・「文化審議会国語文化会」の資料に基 づき、日本語支援者に求められる資質・ 能力について ・日本語文の構造(文法)	柏谷 涼介	なし
2	令和3年1月17日 (日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	日本語文の構造	・日本語文の構造(文法、音声)	柏谷 涼介	なし
3	令和3年1月24日 (日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	コミュニケーション の日本語とは？	・コミュニケーションのために必要なこと ・発話調整	柏谷 涼介	なし
4	令和3年1月31日 (日) 14:00～16:30	2.5	大垣市スイ トピアセン ター男女共 同参画活動 室	8	ニーズの把握方法	・学習者のニーズ把握の方法 ・生活者の学習支援で使える教材やア プリなどの紹介	柏谷 涼介	なし
計		20		112				

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【入門編 第1回 令和2年10月18日(日)】 テーマ:大垣市の多文化共生について、当協会の日本語学習支援について
(1)多文化共生についての講義(講師:大垣市まちづくり推進課(多文化共生係)職員)
・大垣市在住の外国人人口、国籍、在留資格等のデータから、外国人の背景や実情を学んだ。
・大垣市が実施した多文化共生に関するアンケート(外国人と日本人を対象)結果から市民の意識、また外国人が困っていること、日本語の理解度などを紹介し、参加者と共に、外国人市民への日本語学習支援の必要性を考えた。
・多文化共生に関する大垣市の取組、日本語学習支援事業の具体的な取組を紹介し、多文化共生の考え方や日本語学習支援に関する理解を深めた。

(2)日本語学習支援について(担当:当協会職員)
・例年は、実際に見学していたが、教室内での密を避けるため見学はできなかった。代わりに事前に撮影した動画やスライドで雰囲気やどのようなことを学習しているか紹介した。また、当協会で実施している日本語学習支援の取組について説明をした。
・実際に日本語を学んでいる様子やこの講座を経て実際に活動してもらう日本語教室のアシスタント(グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェック、講師と共に会話モデルを示す役割を担う)の様子がわかるような動画を入れたことで、具体的な様子が分かったなどの感想があった。



▲大垣市職員による講義

○取組事例②

【入門編 第5回 令和2年11月29日(日)】
活動内容:平成29年度に作成した教材を使った学習支援を体験(講師:セントラルジャパン日本語学校主任教員)
・平成29年度に作成した日本語学習教材「やさしい せいかつのにほんご～はなしましょう～」の「会社で電話をして休むと伝える」の場面を使った学習方法の一例を示した。
・その例を用いて、体験をした。受講者2人ずつのペアになり、支援者役、学習者役に分かれて実施した。



▲講師による講義



▲実際に教材を使った体験

(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できたかを検証するために、アンケートを実施した。詳細は別紙アンケート結果の通り。
・(入門【5】、ブラッシュアップ【4】)「このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか」の質問を両コースで実施した。85%以上が「深まったと思う」または「まあまあ深まったと思う」と答えた。講座を通して「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、日本語学習支援の必要性を全員が感じたことから、目標にある「地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す」一定の成果を上げることができたと考ええる。
・入門編では、一般市民(ボランティア未登録者)が15人受講し、うち5人が講座受講後ボランティアに登録した。コロナ禍で、まだ活動を始めていない人もいるが、ほとんどの人は既に日本語教室のアシスタントやマンツーマン方式日本語学習支援ボランティアとして活動している。講座を通して外国人が日本語を習得する必要性を感じ、日本語支援に関わる人材が増える結果につながった。
・ブラッシュアップ編では、日頃の活動で困っている点を申込み時点で募集し、講座の中で扱った。受講者が知りたい具体的なことを伝えることができ、また少人数だったことから講座中に講師に直接質問をするなどもできた。不安を解消して継続した支援につながっていくと感じたので、今後も参加者が聞きたいことを事前に募集していきたいと考えている。また、アンケートから「更に身につけたい事柄」として、具体的な意見が出たので、次回実施時に検討していきたい。

(3) 今後の改善点について

・入門編受講者で、ボランティアをしていない人全員が日本語支援に「関わってみたい」または「できれば関わってみたい」と答えた(【6】参照)一方、実際の活動に繋がった人は、その約3割と開きがあった。活動に繋がらない理由を把握し、活動のあり方を含め検討していく。例えば、おしゃべりを通して交流する「おしゃべりルーム(自主事業で実施)」など、より気軽に参加できるものへ繋げるなど、興味を持って参加された人が1人でも多く関わってもらえるような方法を検討していく。
・実際にボランティア活動している人や学習者が体験談を話すことで、より不安感が低くなり、敷居が低くなると思うので、このような内容を入れていくことを検討したい。
・今年度は日本語教室等の見学ができなかったこともあり、実際の場面を見てみたかった、という意見が複数あった。今年度は、講座以外での見学を個別で受けたが、見学(体験)をすることが実際の活動につながると考えるので、見学者数を限定し複数日を設けるなどして、講座の一環として見学と体験を入れるようにしたい。
・入門編アンケート【7】で「ボランティアを始めると想定した場合、不安に思うこと、さらに身につけておきたいと思うこと」を尋ねた中で出てきた内容を、次の講座では検討したい。

＜取組3＞【実施期間：令和3年2月7日】											
取組の名称		地域日本語教育シンポジウム in 大垣									
取組の目標		・地域住民に対して、外国人市民の現状や本事業の取り組みの成果報告を通じた情報発信を行い、外国人市民への日本語教育の理解や多文化共生のための地域づくりについての理解を促す。									
取組の内容		・大垣地域の外国人の現状や当協会で実施している日本語学習支援の取組を広く知ってもらうこと、地域の日本語教室のあり方や今後の課題、そして地域課題としてある就労者への日本語教育をどうしていくかを、考えるシンポジウムを行った。 ・今年度は、会場の収容人数に制限があるため、会場とオンラインの両方で開催した。 【当事業の成果報告】(20分) ・大垣市の外国人の状況や背景と共に、取組1と2を含む日本語学習支援事業の現状の紹介と課題提起をした。 ・日本語教室のアシスタントで活動しているベトナム人が、学習者との関わりや自分自身の日本語学習についてなどをスピーチした。 【講演会】(50分) ・東海日本語ネットワーク副代表、米勢治子氏による「地域日本語教育のあり方と今後の課題」と題した講演。 【岐阜県の日本語教育体制整備について】(15分) ・岐阜県が行っている体制整備事業について、岐阜県日本語教育統括コーディネーターの横山博信氏から説明。 【パネルディスカッション】(75分) ・地域の日本語教室に参加する人の多くは、就労者である。そこで、就労者への日本語教育に焦点を当てた、パネルディスカッションを行った。 ・当協会の取組に関わりのある人に加え、岐阜県日本語教育統括コーディネーター、東海地域の中間支援組織で長年地域日本語教育に携わっている人、技能実習生の監理組合、と異なる立場の人をパネリストに招き、生活者の中の就労者に焦点を当てたディスカッションを行った。 パネリスト：米勢治子氏(東海日本語ネットワーク 副代表) 横山博信氏(岐阜県日本語教育統括コーディネーター) 柏谷涼介氏(セントラルジャパン日本語学校 主任教員) 高田雅雄氏(岐阜中部樹脂工業協同組合 事務局長) コーディネーター：伊藤かな氏(岐阜協立大学 非常勤講師)									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・参加者が日本語教育の重要性などを理解し、多文化共生社会のために自分は何ができるか考えることができた。									
取組による日本語能力の向上		・日本語スピーチ者がスピーチの準備を通して、日本語の表現や伝え方などを学んだと共に、日本語を話すことの自信につながった。									
参加対象者		・日本語学習支援者、日本語教育関係者 ・一般市民、多文化共生に興味のある人 ・外国人市民 ・自治体職員など				参加者数 (内 外国人数)		106人(4人) 参加者：100人 登壇者：6人			
広報及び募集方法		・当協会ウェブサイト ・大垣市広報誌 ・チラシ配布(配布先：市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(大垣市内の大学、短期大学及び岐阜大学))、岐阜県庁、西濃地域の役場、岐阜県内の国際交流協会や日本語教室) ・文化庁のサイト掲載及び文化庁からのメール配信 ・ボランティア登録者及び賛助会員への案内送付									
開催時間数		総時間 3時間(空白地域 0時間)				内訳 3時間 × 1回					
主な連携・協働先		岐阜県、大垣市、大学、日本語学校、外国人雇用企業や技能実習生の監理団体									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
				4人						102人	106
※該当する場合のみ											

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年2月7日 (日) 13:00～16:00	3	大垣市スイ トピアセン ター スイピ アホールと オンライン (Zoom)	106	地域日本語教育に ついて考える	[取組の報告とスピーチ発表] ・今年度の取り組みの成果報告 ・取組1の日本語教室アシスタント(ベトナム人)による日本語スピーチ発表 [講演] ・地域の日本語教室のあり方と今後の課題 [岐阜県の日本語教育体制整備について] ・今年度の取り組みと今後の展開について [パネルディスカッション] ・地域日本語教育の中で、就労者の日本語教育をどう考えていくべきか		[取組の報告とスピーチ発表] 吉安 三恵 ギエム ティ リン [講演] 米勢 治子 [岐阜県の日本語教育体制整備について] 横山 博信 [パネルディスカッション] 米勢 治子 横山 博信 柏谷 涼介 高田 雅雄 伊藤 かな
計		3		106				

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和3年2月7日(日)】
【日本語学習支援の取組の紹介と外国人市民によるスピーチ発表】
・大垣市在住外国人の背景や今までの取り組み、そして今年度の取組1、2及び自主財源で実施しているマンツーマン方式日本語学習支援などの報告と活動の中で抱えている課題を提起した。
・以前、マンツーマン方式の日本語学習支援で日本語を学習し、今年度日本語教室基礎クラスのアシスタントとして活動したベトナム人のリンさんが、日本語を学習しようと思った経緯や日本語教室でどのように学習者と接しているのか、など日本語でスピーチした。

【講演「地域日本語教育のあり方と今後の課題」】
・外国人が日本語を習得した先にあるのは、地域社会で活躍できること、そして多文化共生社会の基盤づくり。そのためには、日本語教室では住民全体が関わり、日本語で対話をしながら対等の立場で学ぶ協働学習の場であることが必要であり、また今後の課題として大きく4点の提言があった。

【岐阜県の日本語教育体制整備について】
・今年度に岐阜県が推進した日本語教室や人材育成事業などの報告、来年度に向けた事業展開についての説明があった。

【パネルディスカッション】
「これからの地域日本語教育を探る～多様化する外国人就労者に焦点を当てて～」
・パネリストからは、次のような意見があった。
○日本語を習得するだけでは外国人が住みやすいことにはつながらない。受入側が寛容になること、外国人も一緒に暮らす住民だということを認識することが大切。
○企業内で日本語教室を実施している事例があり、そこでの目指す姿は、企業の従業員と一緒に学ぶ協働学習の場であること。日本語教室を通して、日本人従業員の外国人に対するコミュニケーションスキルが上達し、就労の場でも伝えられることが増えていく。そして、「こんなこともわからないのか」ではなく「こんなに頑張っている」と感じ、受容の仕方が変わる。この姿勢が地域で生活していける可能性ではないか。
○岐阜県で今年度実施した企業と連携した日本語教室の展開として、日本語教室に手を挙げる企業がもっと増え、県内全域において日本語教育の機会を増やしていきたい。
○岐阜県と連携した日本語教室を実施した企業の声として、ベトナム人実習生と日本人従業員とのコミュニケーションが増えたこと、実習生から声を書けることができるようになったことが成果だと感じている。



▲日本語スピーチ発表



▲パネルディスカッション(スクリーン)



▲パネルディスカッション(会場パネリスト)



▲会場の様子

(2) 目標の達成状況・成果

・参加者の7割がオンライン参加ということもあり、大垣地域以外からの参加も多かった(大垣地域:約40人、県内:約10人、その他:約50人)。当事業を含めた取り組みを広く紹介することができ、アンケートからも取り組みがよくわかった、また参考になったという声があった。

・アンケートに設けた自由記述欄には、日本語教育のあり方に加え、日本語教育に対する地域住民の理解と受容の姿勢の大切さなどの講演の内容に共感する意見が多く寄せられた。目標にある地域住民に対する日本語教育の理解や多文化共生の地域づくりに対する理解を促進できたと考える。

・岐阜県日本語教育総括コーディネーターの登壇、大垣市の多文化共生担当課の課長の参加など、自治体の関係者と課題などを共有することができた。日本語教育を推進していくためには資金や人材のネットワークなど、自治体をはじめとする関係団体と連携や協力が必要となるため、今後の展開に繋げる一歩になった。

(3) 今後の改善点について

・会場の収容人数に制限があることから、会場とオンラインの両方で開催した。両方を実施することはどちらか一方よりも難しい点が多々あり、また人手も多く必要であった。運営面では、インターネット環境が安定した会場選びや、人手が足りない時のボランティア募集などの課題があるため、次回開催の際には検討したい。

・大垣や岐阜県の取り組みをより詳しく知りたい、という意見がアンケートに記載されていた。それぞれ15分という短い時間のため、概要程度に留まってしまった。次回開催の際には、もう少し時間を長くすることを検討する。

・4つの内容を入れたため、それぞれに十分な時間がとれなかった。アンケート結果から、パネルディスカッションのパネリストの人数を絞り、特定の問題にフォーカスした方が議論は深まったのではないかと、という意見もあった。次回は、テーマを明確にするとともにそのテーマに合わせてパネリストやパネリストの人数などを検討していきたい。

・事前に質問を提出しておくのがよいのではないかと、という意見があった。講演講師への質問など事前に募集することで、それを含めた話をすることも可能だと思うので、実施方法についても検討しできる点は改善していきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

言葉や生活習慣、文化の違いなどから日本人と外国人の間で生じるトラブルや、言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設け、地域の人と積極的にコミュニケーションが取れる下地をはぐくむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させることに加えて、日本語教育の取組の成果を広く地域住民に発信することで、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・日本語教室の受講者アンケート結果から、教室参加前と比較し日本語が理解できるようになった、地域生活がしやすくなったなど、成果があった。日本語教室の参加が生活者としての地域生活に役立っていることが分かる。地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎ができたと考える。
・生活する上では言葉だけでなく様々な情報が必要であるため、生活場面をテーマにした日本語とそれに関する情報を学ぶ日本語教室を実施した。受講者の内容に対する満足度からも取り組みの実施は一定の効果があったと考える。
・日本語指導ボランティア講座の実施により、地域住民に外国人の背景や実情を知ってもらうことができた。受講後にボランティアとしての活動に繋がってなくても、多文化共生に対する知識や姿勢のある人が増えることで、外国人に寛容な地域づくりに繋がっていくと感じている。
・シンポジウムによって、外国人が地域社会で活躍できるための日本語教室のあり方、そして今後の課題を、日本語学習の支援者や地域住民、自治体職員など関わる人々と共有できた。
・日本語教室のアシスタントとしてベトナム人2人が参加した。日本語学習の先輩であり、学習者目線で寄り添った対応や姿勢でサポートし、学習者は安心して教室に参加していたようだった。学習者が多様な立場の人との関わりで得られるものがあるだけでなく、アシスタントとして参加した外国人にとっても地域社会での活躍の場になっている。日本語学習の先に活躍できる場を作っていくことの一つでもあると思うので、今後も外国人が支援側として活動できる機会も増やしていきたい。
・全体として、まだ不十分なところもあるが、日本人と外国人が共に寄り添える基盤を作ることができたと考える。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

①行政機関との連携
・市職員(災害担当、ごみの担当)が日本語指導者と共に教室活動(避難所の確認やごみの分別など)を行い、必要な情報提供をした。直接外国人市民に接する中で、行政からの情報提供の大切さと共に、どうすれば伝わるのか実感してもらうことができた。
②日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)
・地域の日本語学校及び大学で日本語を教える日本語教師(有資格者)が日本語教室の指導者をした。日本語教育の専門性と多文化共生の観点の両方を持った教室活動ができた。
③運営委員会
・日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者(大垣市職員、日本語教育機関で教える日本語教師、小学校教員、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員)に運営委員会のメンバーに入ってもらい、各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力できた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

●参加者募集に当たっての周知・広報
【日本語教室】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報誌(ポルトガル語版)
・チラシ配布(やさしい日本語・ポルトガル語・中国語・英語版)(配布先:市役所、外国人学校、外国人児童・生徒放課後学習支援教室)
・SNS(Facebook(やさしい日本語・ポルトガル語・英語)、微信(中国語))
【日本語指導ボランティア講座】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報誌
・チラシ配布(配布先:市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(大垣市内の大学、短期大学及び岐阜大学))
・ボランティア登録者への案内送付
【地域日本語教育シンポジウムin大垣】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報誌
・チラシ配布(配布先:市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(大垣市内の大学、短期大学及び岐阜大学))、岐阜県庁、西濃地域の役場、岐阜県内の国際交流協会や日本語教室)
・文化庁のサイト掲載及び文化庁からのメール配信
・ボランティア登録者及び賛助会員への案内送付
●事業成果の地域への発信
・当協会ウェブサイト
・当協会機関誌「フレンドリー」
・シンポジウムにおいては、新聞社の取材があり新聞に記事掲載(中日新聞、岐阜新聞)

(5) 改善点、今後の課題について

①日本語教室の活動・運営について
・国籍や日本語レベルが様々でも、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。学習者間の交流を促し、学習者が教室に参加したい、また教室が居場所になるよう、教室運営に活かしていく。また、支援者の関わり方で、教室活動が活発になっていくので、支援者講座を通して支援者の求められる姿勢や態度などを伝えられる工夫をしていきたい。
・日本語学習を希望する人が大変多くいる。取組1で実施した教室形式(2コース)と自主財源で実施しているマンツーマン方式など、複数の取り組みを実施しているが、それぞれの取り組み間の連携が不十分である。連携を図る体制整備が、日本語学習支援のよりよいあり方、そして日本語学習希望者の待機解消にも繋がると思うので、連携方法を検討していく。
②人材の育成・研修の実施について
・学習希望者に対して、指導・支援の人材が不足している。今後も在住外国人が増えることが想定されるため、新しい人材の育成に加えて、既に支援者となっている人のステップアップを含めた、人材育成研修の内容を文化審議会の報告書などを踏まえて検討していく。
・日本語非母語話者が支援者として継続していけるよう、また活動しやすいように、何らかの支援や仕組みを整えていく必要を感じている。
③日本語教育事業の実施体制、全体の取組について
・日本語教室の実施プログラムやカリキュラム作成など、日本語教育のコーディネートすべき業務は多岐にわたるため、今後より一層の連携を図っていく。
・日本語支援が必要な外国人に情報を伝達できるように岐阜県を含めた関係機関との連携を深めていきながら、互いに顔の見える関係づくりに向け、連携方法などを検討していく。

(6) その他参考資料

○チラシ

- ・日本語教室「基礎クラス(1～3期)」「生活の日本語クラス」(それぞれ日本語、ポルトガル語、中国語、英語)
- ・日本語指導ボランティア講座「入門編」「ブラッシュアップ編」
- ・地域日本語教育シンポジウムin大垣

○受講者アンケート

- ・日本語教室「基礎クラス(1～3期)」「生活の日本語クラス」
- ・日本語指導ボランティア講座「入門編」「ブラッシュアップ編」
- ・地域日本語教育シンポジウムin大垣

○新聞記事

- ・「地域日本語教育シンポジウムin大垣」について、中日新聞、岐阜新聞の記事